



ハンセン病問題から人権を考える (2022年度 厚生労働省委託事業)

映画「マイ・ラブ 絹子と春平」教育用上映会 & 戸田監督・石山夫妻のトークセッション

2022年10月22日(土)

プログラム

- 13:00~14:20 映画上映会 (札幌・旭川・帯広の各会場)
◆映画の紹介と上映会
- 14:30~16:00 トークセッション
◆絹子さん×春平さん×戸田監督
コーディネーター: 金丸哲大弁護士

- 札幌会場: 毎日札幌会館 5A 定員50人
(札幌市中央区北4条西6丁目1)
- 旭川会場: 旭川市民文化会館 第2会議室 定員54人
(旭川市7条通9丁目)
- 帯広会場: とかちプラザ 401号室 定員50人
(帯広市西4条南13丁目)

※オンライン参加も受付けます。(後日、ZoomのURLを送信いたしますので、必ずメールアドレスをお伝えください)

◎申込先: 札幌弁護士会 田中健太郎弁護士
tanaken@juno.ocn.ne.jp

(〒060-0042 札幌市中央区大通西10丁目 南大通ビル9階
八十島法律事務所 Fax 011-204-8102)

参加対象: 福祉関係者、教育関係者、人権問題に関心のある方
オンライン参加について: オンライン参加も受付けますが、映画の視聴については各会場でのみ、となります。
申込方法: お申込みの際は、①名前 ②住所 ③連絡先電話番号・メールアドレス ④参加希望会場(オンライン参加かどうか)をメールまたはFaxでお伝えください。

映画を観る前に・・・岐阜県恵那市に生まれた絹子さんは、神山復生病院(静岡県のハンセン病療養所)の看護婦長だった井深八重にあこがれ、25歳(1963年)の時、神山復生病院の職員となる。そこでハンセン病回復者の石山春平さんと運命的な出会いをする。春平さんに「一人で生きていけなくても二人で頑張れば人間生きていける」と愛を告白し、春平さんの社会復帰を決意させる。春平さんの後遺症による身体のハンディと、ハンセン病に対する世間の偏見と差別におびえながらも二人は3人の子どもを育て上げ、2001年の『人間回復の裁判』以降はカムフラウトして、ハンセン病を原因とした人権侵害の歴史的事実と、人間としての尊厳を守ることの大切さを世間に訴え続けている。2019年の家族裁判にも加わり歴史的な勝利を勝ち取った。

主催: 北海道のハンセン病問題に関する協議会

(構成団体: 札幌弁護士会、北海道、北海道社会福祉士会、ハンセン病回復者と北海道をむすぶ会、ハンセン病問題を考える会、ハンセン病問題と教育を考える市民の会「コンパス」)

後援: 北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会

(このチラシは厚生労働省の委託により社会福祉法人ふれあい福祉協会が実施する「ハンセン病対策促進事業」の助成を受けて作成いたしました)